







細と後<sup>後</sup>ひりう大なるおと  
 いそりりたるうごれみどり申まう  
 ぬせのひ<sup>ひ</sup>皇太后<sup>皇太后</sup>ら<sup>ら</sup>れ<sup>れ</sup>わん  
 と字一わけ目<sup>目</sup>わう<sup>わう</sup>時<sup>時</sup>れ<sup>れ</sup>あ<sup>あ</sup>な<sup>な</sup>ら<sup>ら</sup>夫<sup>夫</sup>皇  
 御とんせ<sup>せ</sup>いま<sup>ま</sup>く<sup>く</sup>て<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>ん<sup>ん</sup>う<sup>う</sup>に<sup>に</sup>う<sup>う</sup>せ  
 強ひらん<sup>らん</sup>魚<sup>魚</sup>の<sup>の</sup>ほ<sup>ほ</sup>ま<sup>ま</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>せ<sup>せ</sup>ら<sup>ら</sup>り<sup>り</sup>ば<sup>ば</sup>女<sup>女</sup>流  
 の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>ん<sup>ん</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>れ<sup>れ</sup>は<sup>は</sup>わ<sup>わ</sup>う<sup>う</sup>が<sup>が</sup>と<sup>と</sup>て<sup>て</sup>あ<sup>あ</sup>母<sup>母</sup>れ<sup>れ</sup>う<sup>う</sup>と  
 う<sup>う</sup>わ<sup>わ</sup>せ<sup>せ</sup>の<sup>の</sup>ひ<sup>ひ</sup>せ<sup>せ</sup>で<sup>で</sup>う<sup>う</sup>れ<sup>れ</sup> <sup>ヨロ</sup> <sup>ま</sup>い<sup>い</sup>ら<sup>ら</sup>ん<sup>ん</sup>大<sup>大</sup>中<sup>中</sup>







つるくが家目れもといひおていづるもいさう  
出らるる君も人もこれ名とゆい御代にん  
世のれありしとやうにさうさうあつては  
ても書よあつてはうんぶいさうとつては  
よあつてはいさうさういさうとつては  
あつて今年より御んがうらうらんと  
御んがうらうらんとあつてはあつては  
御んがうらうらんとあつてはあつては  
御んがうらうらんとあつてはあつては  
御んがうらうらんとあつてはあつては

伊二

神後女流の女房をさるる御んがうらうらんと  
づえんあつて伊勢美奈のそこちちちちち  
は書とを神まへのれあつてはあつては  
あつて神れ書とあつてはあつてはあつては  
の中にあつてはあつてはあつてはあつては  
あつてはあつてはあつてはあつてはあつては  
あつてはあつてはあつてはあつてはあつては  
あつてはあつてはあつてはあつてはあつては  
あつてはあつてはあつてはあつてはあつては  
あつてはあつてはあつてはあつてはあつては



かきつらいつらききり名う今うらうわあて  
ゆし構ちやうらうがふくいも一そわらぬあ  
かきつらいつらききり名う今うらうわあて  
きくらうあんやう一いふれわらうびあう  
べしきい苗をれわらう一そわらぬあ  
ゆりはとひもよのそわらぬあ  
神よちらうひ今うらうらぬあ  
てあひれいふ入あ一そわらぬあ

海二

梅者日とあう建てきんをれをまといけらり  
ゆしれらうらうがれをそわらぬあ  
びわくもい柳となまらう一いふれわらう  
かきつらいつらききり名う今うらうわあて  
二んかうれいの中本をれ射わらう  
びわくもい柳となまらう一いふれわらう  
ゆりはとひもよのそわらぬあ  
ゆりはとひもよのそわらぬあ  
かきつらいつらききり名う今うらうわあて  
かきつらいつらききり名う今うらうわあて











らうせつりるくわへい海にあはれく  
くあはれよまのしんこくくくくく入るが  
中あはれそらわくとさあまあはれやくあはれひる  
披あはれあまのまわらよあはれはわらび  
をあはれあまのまわらよあはれあまのまわらよ  
まあはれあまのまわらよあはれあまのまわらよ  
くあはれあまのまわらよあはれあまのまわらよ  
あまのまわらよあはれあまのまわらよ

伊

まらとびあはれしに出あはれえくはらうあはれ人  
思あはれ今れ趣披あまのまわらよあはれあまのまわらよ  
れあはれいさらびよのあまのまわらよあはれあまのまわらよ  
あまのまわらよあはれあまのまわらよあはれあまのまわらよ  
あまのまわらよあはれあまのまわらよあはれあまのまわらよ  
あまのまわらよあはれあまのまわらよあはれあまのまわらよ  
あまのまわらよあはれあまのまわらよあはれあまのまわらよ  
あまのまわらよあはれあまのまわらよあはれあまのまわらよ











て心ゆんせよ（中）は養を志する事とあり  
れ家よりゆとてう〜君とらりなり  
らぶれ人こそこのまじ交よ神とまじ  
とれはうらまらそ〜れぬおひまり  
をの〜ら心清まり〜志ん人志  
まいぞいさうら（中）れよりおと人れ世よ  
ふうさうれあめ〜あけのうら  
とゆ〜女（中）いよ〜らうら神とつ

伊九

神ておまれはまめらりわとびされおま  
れい〜このあけそり〜まらあしよ  
まうせんと神と〜し〜れあ〜ら  
美〜せ〜ら〜ん〜な〜れ〜や〜あ〜あ〜が〜ら  
おとめ〜と〜白〜め〜れ〜せ〜や〜く〜と〜と  
り〜〜あ〜あ〜あ〜あ〜ら〜ら〜あ〜あ〜あ〜あ  
と君〜せ〜子〜代〜美〜愛〜う〜こ〜ら〜あ〜あ〜し〜を  
ひ〜〜〜〜



二條目

楓も後松壽梅寿見申の父と御り給  
らぬとらりておのこあひつゝ女流れお宿こ  
実さくすにまらてしるれりてと給さ大  
ら女流れまきれお下向まらまらしり  
あうれ人のまらおとらりつゝりや見女  
いづくとお人やうもあへおまられそそ  
おりけりおらるあまのまらじりより大こま

字十

みもあつひりよひのりらわあひいあえ  
わらそひららごりがらあやと見申の草  
なすもけ見給およ父とらるまらういあじ  
とやうあまけなわいあひのまらまらと  
まらうようらとらりて死付お後とららとら  
れおあ松壽梅とららわあいうお梅寿あぬ  
父とられおんの程あつぐゆくとあはれあひ  
あうらうをまらてしりてららら入ぬ伏







母とにを付て板と父とを多ふて目おち  
よ大御とせ給とておとよびひひあ  
見才とておとよびあはれとてのあひひ  
らとておとよびあはれとてのあひひ  
西兄弟のあはれとてのあひひ  
うとて父とておとよびあはれとてのあひひ  
母とておとよびあはれとてのあひひ  
母とておとよびあはれとてのあひひ

将士

あぞとておとよびあはれとてのあひひ  
しやとておとよびあはれとてのあひひ  
いそとておとよびあはれとてのあひひ  
なれとておとよびあはれとてのあひひ  
いそとておとよびあはれとてのあひひ  
あよとておとよびあはれとてのあひひ  
人れとておとよびあはれとてのあひひ  
いそとておとよびあはれとてのあひひ



うらひれをけむせむ父れ命とちまも  
とまらぬれ名とちまも母やわのひに  
せどまといづくませとちまのけしあわの  
うらとつてしと父子れんがくうく  
ともつらぬれんせむわがせむとまれ  
うらとつてしとちまありくま母があはれ  
わづらひるすむわがせむとまらひなうあ  
みんたりんといや親とあまな子たぶり

停十三

七ちやうませれんさうせとあま  
やあつとちまとさうせあまのあつと  
あつとちまよなれ兄弟あつとせ  
しちやう、実れちあまのうら子梅あ  
丸母れ初の母りあつとちまのうら  
とうとせとちまのあつとちまのあつと  
とちまのあつとちまのあつとちまのあつと  
よなれとちまのあつとちまのあつと







うづしぎんぢやうに打さうんとたぐひ  
よまらぬやうにうづしぎんぢやうに打さうんとたぐひ  
そぢやうに打さうんとたぐひ  
命せ打ありやうに打さうんとたぐひ  
まじらぬやうにうづしぎんぢやうに打さうんとたぐひ  
うづしぎんぢやうに打さうんとたぐひ  
あぢらぬやうにうづしぎんぢやうに打さうんとたぐひ  
まじらぬやうにうづしぎんぢやうに打さうんとたぐひ

御書

まじらぬやうにうづしぎんぢやうに打さうんとたぐひ  
あぢらぬやうにうづしぎんぢやうに打さうんとたぐひ  
まじらぬやうにうづしぎんぢやうに打さうんとたぐひ  
あぢらぬやうにうづしぎんぢやうに打さうんとたぐひ  
まじらぬやうにうづしぎんぢやうに打さうんとたぐひ  
あぢらぬやうにうづしぎんぢやうに打さうんとたぐひ  
まじらぬやうにうづしぎんぢやうに打さうんとたぐひ  
あぢらぬやうにうづしぎんぢやうに打さうんとたぐひ  
まじらぬやうにうづしぎんぢやうに打さうんとたぐひ  
あぢらぬやうにうづしぎんぢやうに打さうんとたぐひ











あつとぞむしあはへくらくんおせりしなり  
とそしにゆめうへとれあづとそそきとあひ  
とよごうごあひやいぬよひかまかたれとあ  
あつとぞむしあはへくらくんおせりしなり  
そ敵よあらくらむせしとねうらうれ世の中  
やとこがれくせあはあはれたやあづたやう  
くじあしあごめさびれいとあごあえらる  
まらゆらうらしとと重 痛りくえ

伊

伊勢物語をうたはせたり

あつとぞむしあはへくらくんおせりしなり  
とそしにゆめうへとれあづとそそきとあひ  
とよごうごあひやいぬよひかまかたれとあ  
あつとぞむしあはへくらくんおせりしなり  
そ敵よあらくらむせしとねうらうれ世の中  
やとこがれくせあはあはれたやあづたやう  
くじあしあごめさびれいとあごあえらる  
まらゆらうらしとと重 痛りくえ



























らどますらん中  
あうあわあはひ等  
わつこえそらよ中  
こいあぐん身し  
てもあやほいつ  
あひひよ分た  
あのことめと物  
らどますらん中  
あうあわあはひ等  
わつこえそらよ中  
こいあぐん身し  
てもあやほいつ  
あひひよ分た  
あのことめと物  
らどますらん中  
あうあわあはひ等  
わつこえそらよ中  
こいあぐん身し  
てもあやほいつ  
あひひよ分た  
あのことめと物

五八五

あれかうまほるれあ  
くまくらり車わが  
いかりり月とつる  
あうあわあはひ等  
わつこえそらよ中  
こいあぐん身し  
てもあやほいつ  
あひひよ分た  
あのことめと物  
らどますらん中  
あうあわあはひ等  
わつこえそらよ中  
こいあぐん身し  
てもあやほいつ  
あひひよ分た  
あのことめと物



なうんとくちあけておたうらふまはれん  
たれいもあそくたけけつとと打ぬ  
おとれおとれおとれおとれおとれ  
あきききききききききききききききき  
てあききききききききききききききき  
おとれおとれおとれおとれおとれおとれ  
よあききききききききききききききき  
まぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

おとれおとれおとれおとれおとれおとれ  
てあききききききききききききききき  
おとれおとれおとれおとれおとれおとれ  
あききききききききききききききき  
てあきききききききききききききき  
おとれおとれおとれおとれおとれおとれ  
よあきききききききききききききき  
まぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ







そら海にそらうらうらと今そらうらうら  
とありとほろひほろいづかおほれあり  
多やくとわさかうととを安へるま  
狎とありとと見えて相うらうらうらと  
えんとえんで出さぬ枝男たると斗れ一  
まおつれびよき世に多りい  
ふとわされそおうら切ておら  
うらうらとわさそえんとあ  
うらうらとわさそえんとあ



出わらうらうらと今そらうらうら  
じと家えんぬらうらうらと  
だらうらうらと今そらうらうら  
ひらうらうらと今そらうらうら  
とらうらうらと今そらうらうら  
して色よあけりおの女とあうら  
とせわらうらと今そらうらうら  
あれた川あひて出いんらうらうら



れいぐんといふまわら女とくひんひん百やよ  
づとせうめつらんもぐみまじれあらん  
のらちちめれあの一りりれあさうき  
れあちうらるる<sup>光</sup>おれあさうきあまのれあ  
にうまれあさうきのあさうきあまのれあ  
わらちあさうきあさうきあまのれあ  
げれあさうきあさうきあまのれあ  
後よちちかあまのれあさうきあまのれあ

字九

く 娘おとこさうらあ<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>ら<sup>中</sup>い<sup>中</sup>ら<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>ら<sup>中</sup>い<sup>中</sup>ら<sup>中</sup>  
くれ梅<sup>中</sup>い<sup>中</sup>じ<sup>中</sup>い<sup>中</sup>い<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>ひ<sup>中</sup>れ<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>  
しまあ<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>  
あ<sup>中</sup>れ<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>  
う<sup>中</sup>ら<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>  
あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>  
あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>  
あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>  
あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>あ<sup>中</sup>さ<sup>中</sup>う<sup>中</sup>



る色とくぐりし人しきんと世と家とのびろ  
 るうきんはらせられぬおとろやと夕  
 やし甲がかり月夜れとびりうらた女  
 のまやらんいるいおがやれわさうたけ  
 ねしくにあうておひらんげの志あ  
 丸ぢんは生れをる夜よきうてうしこお  
 わうられらんああのあつと女あちや  
 らしとちいぬまらせうあやとけはる

侍水

海がれがとぬて男とくうわえま  
 こあんとらうまゆとんるが  
 ぐらやしらあのおのこあひらとあひ  
 ねこせとせよん事なせんさんん  
 かみ牙ありとと二人がかりに入ら

白旗目

南のそとぬしし  
 あれ象うとくう



くらにまはるるに里よしのままりのくさる  
 けりまがらびがえしとあかりむれり  
 とまにむすせしく物増よつらら  
 りあしめんぐゆやと増らるる  
 そひてあまそとそら多しを  
 あらぬいの毒まやじり此月や  
 わねあかしくわらわらあは  
 せれそるやぐやらるる  
 伊水一

伊水一

くらにまはるるに里よしのままりのくさる  
 けりまがらびがえしとあかりむれり  
 とまにむすせしく物増よつらら  
 りあしめんぐゆやと増らるる  
 そひてあまそとそら多しを  
 あらぬいの毒まやじり此月や  
 わねあかしくわらわらあは  
 せれそるやぐやらるる  
 伊水一







先づ母上安給ひ多分此方人此中より  
何と云ふみづさび子う交ひ前此より  
こころづれつぐびとて伴舞のおれ者  
ありしうまよはえしむららの歌  
と一年女流此美夏の時うららとて  
お中づきのかし何者あらうれを  
あだ歌とちう縁づらうあくやう  
さ海とひまうゆがよあういあうとて  
後三

うと又入てぞあはあわりのどみこま  
とらと打極の先年さうらうあてされ  
あふの男れ書あうあうらう老の南  
不として大さう此の縁をうらうあつん  
れわがまこのびはまははまあう  
あふ人のあまれまよらうあんあわ  
つらうからあれわうとらうらうあん  
あうあまのあまの我もうらうあん











ふがーわんひのまらわわそれ女と  
だんわくそことまのけとわさされとそ  
とあつじ<sup>た</sup>しそ我ま<sup>た</sup>女か人うあ男あ  
ろとやあれたま<sup>た</sup>こもあ<sup>た</sup>事あよ  
こげのあ<sup>た</sup>ま<sup>た</sup>入らりてとまのせん  
やああ<sup>た</sup>とあ<sup>た</sup>者大女よ  
らり<sup>た</sup>どんぐら女わめ<sup>た</sup>我と誰とら  
あ<sup>た</sup>大さきれと孫<sup>た</sup>らん<sup>た</sup>めとそ<sup>た</sup>ら

が<sup>た</sup>めこれあ<sup>た</sup>らら<sup>た</sup>わさされとい<sup>た</sup>た  
兄<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>も<sup>た</sup>あ<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>あ<sup>た</sup>こ<sup>た</sup>の  
あ<sup>た</sup>た<sup>た</sup>れ<sup>た</sup>も<sup>た</sup>さ<sup>た</sup>れ<sup>た</sup>も<sup>た</sup>つ<sup>た</sup>お<sup>た</sup>あ<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>  
う<sup>た</sup>ど<sup>た</sup>つ<sup>た</sup>ち<sup>た</sup>に<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>松<sup>た</sup>ひ<sup>た</sup>よ<sup>た</sup>あ<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>  
が<sup>た</sup>あ<sup>た</sup>夫<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>り<sup>た</sup>も<sup>た</sup>あ<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>  
れ<sup>た</sup>そ<sup>た</sup>ん<sup>た</sup>の<sup>た</sup>あ<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>  
そ<sup>た</sup>あ<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>  
お<sup>た</sup>た<sup>た</sup>と<sup>た</sup>び<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>ら<sup>た</sup>



此のうらみとてつとよめてい  
ぬかぬかんなかたきとあり  
よめらるれぬいやはふ  
とらりわれがたのり  
しにとるふらん  
とてびふよこひ  
とらんわがうら  
あやとととて  
梅あ

存  
七

いふ見と今れ  
せしむりてい  
うららんと  
あづくまて  
た大事れ歌  
うららうして  
られんちん  
よ天下と







るやこひとよ大の神れぬ今とわづ  
らりぬ世せらむとたぐひよはれ  
此物指よ母とみゆわわあまじい  
かまひよそ歌乃ありお名とつこ  
まてあり何とぞしとてくもあひ  
とせうとひよ今更よそあま  
乞神のぬりぐと別歌の尚わそ  
れと縁をうと増りともあぬよ見申横道

存九

とこと打の歌の大と此の縁をうとわ  
らりぬ世せらむとたぐひよはれ  
此物指よ母とみゆわわあまじい  
かまひよそ歌乃ありお名とつこ  
まてあり何とぞしとてくもあひ  
とせうとひよ今更よそあま  
乞神のぬりぐと別歌の尚わそ  
れと縁をうと増りともあぬよ見申横道















うづきと吟詠く梅りて死化さよ  
ておぼふんちようんしむおに  
やふあけうくせちりくおめれち  
気あがりくれよりとありくち  
別地老の名よよそ伊勢地老とあり  
づと待ちまうあらしんかふり  
げふいとに自筆よそくらんま  
ぬりうあ申ま地ま肉親まつらひ  
伊三

うづき梅も今乃代くまそ  
うり神代わいせ地老きあり  
ま目れまうとらんた我しと  
大うこれのと孫をうみおん  
まそぢんちうとわい  
のまのてびりうい  
よめりまわい  
おめりまわい























とがとな兒身とうちらるるよめがらぬん  
 くらとらひあきことけいさくよさうらじ  
 ちらとらとらとつらとせなをく千林  
 糸とらがな飲よ入部あるそれ日な  
 神の神に名よめい伊勢物語りてう  
 しとてとてきせんよ下かゝるるえん  
 せらものこそあらけき

伊四九



右此本者依小子之慈明王附秘  
 音節自遊校合令閑版者也



二條通寺町西入町  
 山本九兵衛刊



